

令和6年度 全国学力・学習状況調査

大仙市分析結果

I 実施の状況

- 1 実施目的 児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握
- 2 実施学年 小学校6年生，中学校3年生
- 3 実施教科 国語，算数・数学
- 4 調査内容 ①教科に関する調査（国語，算数・数学）
知識・技能等に関する問題と活用する力等に関する問題
②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査
- 5 実施期日 令和6年4月18日（木）
- 6 調査方式 悉皆調査
- 7 調査対象

全国（国公立私立小学校）	18,850校	（実施率	99.1%.....	960,389人）
秋田県公立小学校	175校	（実施率	100.0%.....	6,146人）
全国（国公立私立中学校）	10,228校	（実施率	93.9%.....	904,048人）
秋田県公立中学校	105校	（実施率	100.0%.....	6,230人）

Ⅱ 教科に関する調査結果

1 概要

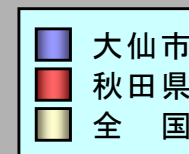
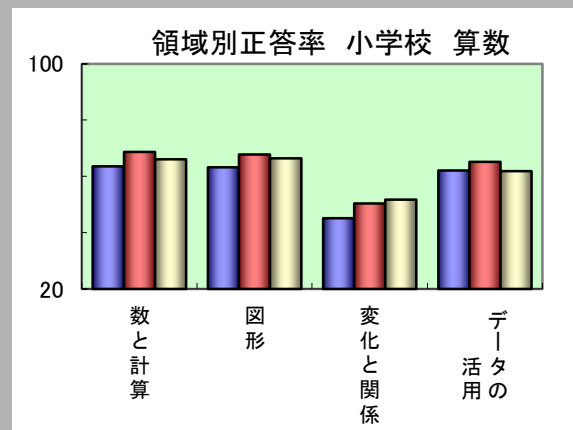
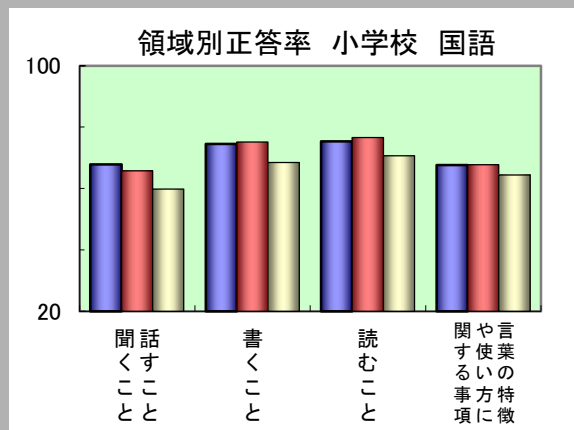
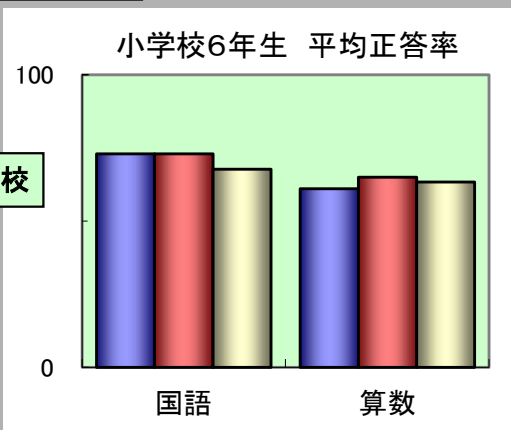
○国語は、小学校、中学校ともに全国の平均正答率を上回っている。算数・数学は、小学校が全国平均を下回り、中学校は全国平均をやや上回っている。

●教科別・領域別平均正答率の状況から見ると、国語は小学校、中学校ともに「読むこと」の領域において県の平均を下回っている。算数・数学は、小学校で「データ活用」領域以外において全国平均を下回っている。中学校は、「数と式」「図形」領域で全国平均を下回っている。図形の性質を見だし、それが成り立つ理由を数学的に説明できる活動を充実していく必要がある。

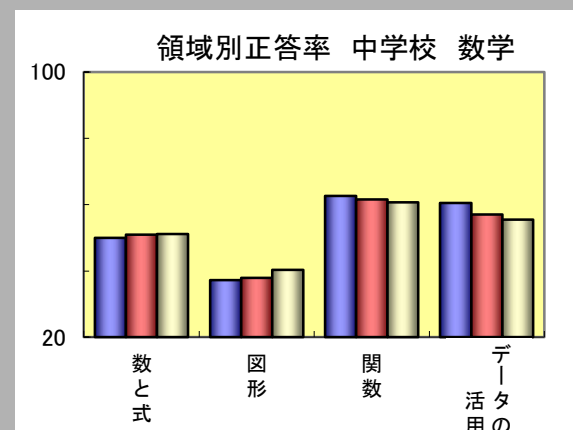
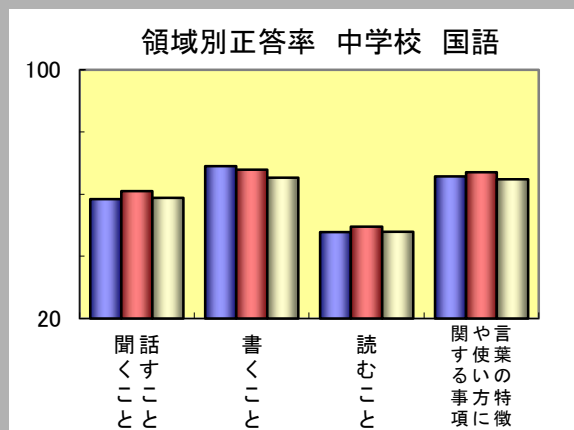
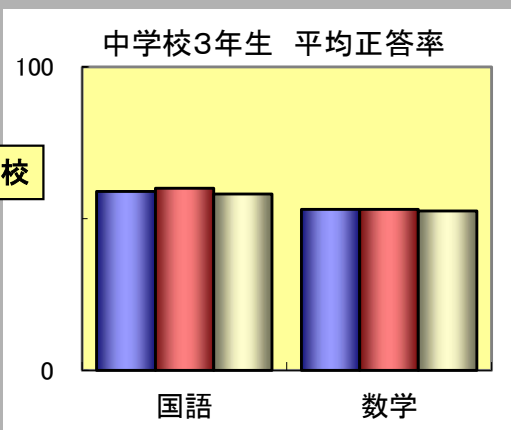
2 結果

【資料1】教科別・領域別平均正答率の状況

小学校



中学校



Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

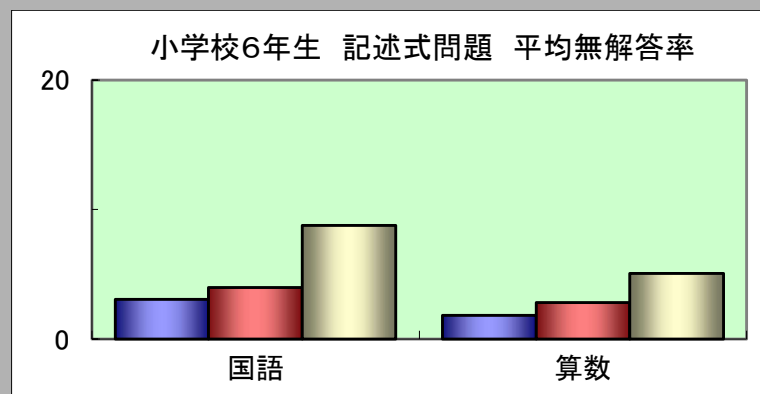
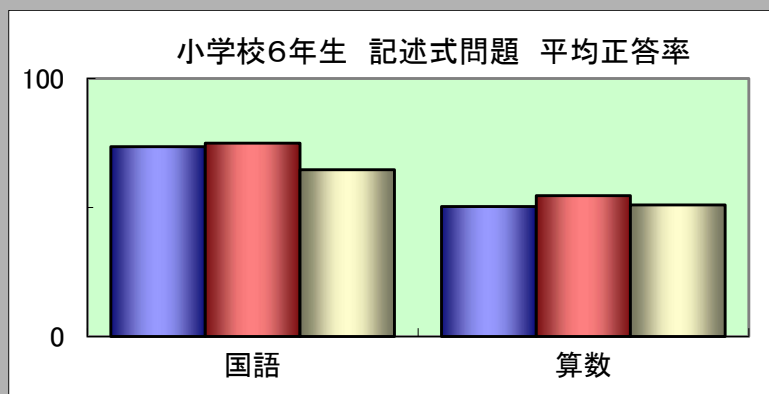
1 傾向

◎学力向上の基盤となる基本的な学習習慣が定着し、児童生徒は最後まで問題に粘り強く取り組んでいる。

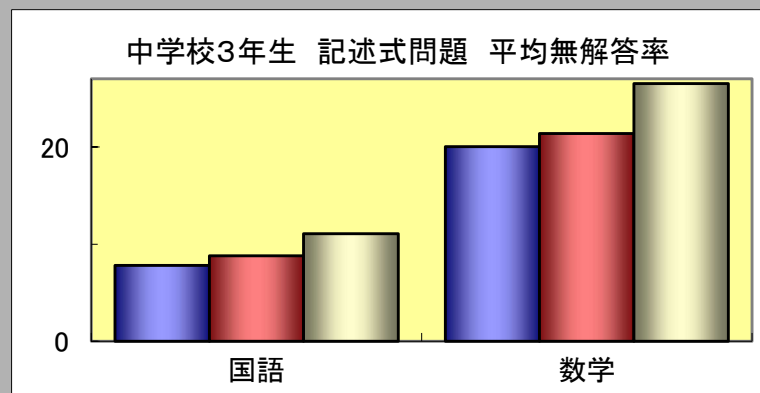
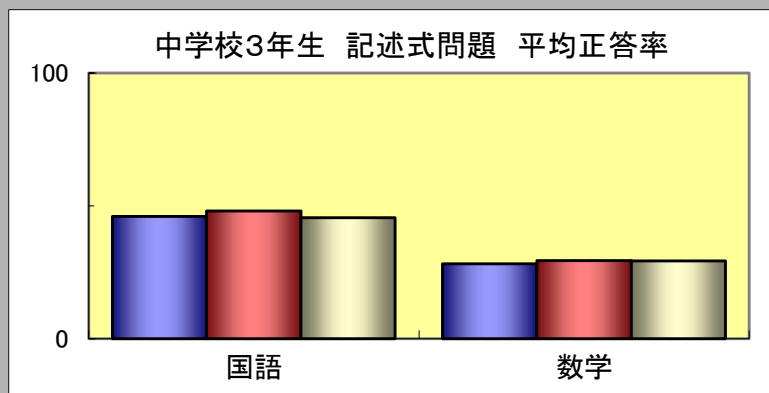
○記述式問題については、中学校は国語、数学共に県や全国の平均正答率と同等である。小学校は国語、算数共に県の平均を下回っているが、国語で全国の平均正答率を上回っている。

○無解答率については、小・中学校共に、全ての設問で全国や県よりも低く、概ね良好な状況が維持されている。

【資料2】 記述式問題 平均正答率・無解答率の状況



小学校



中学校

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

2 要因

① 児童生徒が学習に集中し、落ち着いてじっくり考えることができる環境が構築されている。

- 各学校では 基本的な学習習慣の確立と、失敗が受容される温かな人間関係づくりが進められている。
- 授業の中で、考えや意見を書いたり、発表したりするなどの機会と場を積極的に取り入れている。

② 児童生徒に基礎的・基本的な事項の習得が図られている。

- 復習を中心とした家庭学習の充実と継続が図られ、学校では基礎テストや放課後・長期休業等を活用した補充的学習を実施している。
- ティームティーチングや少人数指導など、児童生徒の実態に応じた指導形態の工夫が効果的に行われている。

③ 児童生徒に活用する力を育成する授業改善が進められている。

- 考えを発表したり話し合ったりする活動を取り入れた児童生徒主体の対話的な授業や、目的に応じて文章を読んだり、根拠を基に説明したりする授業など、思考力、判断力、表現力等の育成につながる授業が積極的に進められている。

④ 各教科において創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されている。

- 小学校における一部教科担任制の活用やタブレット端末の活用、小・中連携による9年間を見通した指導などにより、学習活動が充実し、学びの円滑な接続が図られている。
- 教育専門監の活用や教科担任制による魅力ある授業、地域人材等の活用による専門的な学習活動が行われている。

⑤ 各学校の取組を支援する県・市の施策を積極的に活用し、推進している。

- 県の学習状況調査事業やICTを活用したあきたの教育力充実事業等、県の学力向上に係る施策を積極的に活用している。
- 地域学校協働活動本部事業などを中心に、地域の人材やボランティア等との連携を推進している。
- 各校のPTA及び市PTA連合会等を通じて、学力向上・基本的生活習慣の確立に向けた取組について保護者の理解・啓発を図っている。
- 市独自の施策を推進している。
 - ・心ふれあうさわやか大仙事業「中学生サミット」実施、体験的学習の時間支援事業の実施、学校生活支援員、複式学級支援員等の配置
 - ・市教職員研究集会、教職員研修会の開催
 - ・学校訪問の実施（教育委員会訪問、指導主事訪問 など）
 - ・国際教養大学、県立高等学校、県立特別支援学校等との交流・連携
 - ・「大仙ふるさと博士育成」事業、大仙グローバルジュニア育成事業、人権ユニバーサル事業の実施
 - ・大仙教育メソッドに基づく各種連携の推進

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

3 課題

- 小学校は、国語の「話すこと・聞くこと」に課題がある。算数の「変化と関係」の領域では、全国平均正答率を大きく下回る問題がある。
- 中学校の国語においては、「情報の扱い方に関する事項」について県の平均正答率を下回る問題がある。意見と根拠など情報と情報との関係性を理解することが苦手である。数学の「図形」領域において、全国より低く県と同様に平均正答率が低い問題がある。

課題がみられた問題例（国語）

【和田さんに届いたメールの内容】

1 海渡 先生
おはようございます。お返事ありがとうございます。メールの内容です。これをお読みください。

【(四) フィルターバブル現象】

1 山岡さんたちは、国語の学習に、「フィルターバブル現象の資料」をもち、話し合いの一場面を撮影した。この間に、自分の好みの情報だけに囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなる現象。

「フィルターバブル現象の資料」をもち、話し合いの一場面を撮影した。

※県の平均正答率を下回った問題

【小学校国語 1 三】

全国平均正答率 63.8%
県平均正答率 68.5%

- 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる

= 国語の課題と改善に向けて(小学校) =

※県の平均正答率を下回った問題

■ R6年度の調査結果に基づく主な課題

- ・ 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題がある。

□ 指導改善の主なポイント

- ・ 話し手の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、話す際の材料を集め、分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することが重要である。また、学習活動を振り返る際に、聞き手が知りたいことを想定して内容を検討することができたかという視点をもつことも効果的である。

※全国及び県の平均正答率を下回った問題

【中学校国語 1 三】

全国平均正答率 44.0%
県平均正答率 42.2%

- 意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

= 国語の課題と改善に向けて(中学校) =

■ R6年度の調査結果に基づく主な課題

- ・ 「意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること」に課題が見られた。

□ 指導改善の主なポイント

- ・ 原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際の話や文章の内容を理解したり精査したりする際に、その関係を捉えることができるようにすることが重要である。そのため、話し合いの中での発言などを取り上げ、どの部分が意見でどの部分が根拠なのかを確かめたり、根拠が意見を支えるものになっているかを確かめたりするなど、文脈の中で具体的に捉えることができるように指導することが効果的である。

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

課題がみられた問題例（算数・数学）

4

※全国及び県の平均正答率を下回った問題

【小学校算数 ③(3) ④(3)】

全国平均正答率 36.5% 31.0%

県平均正答率 37.3% 28.4%

- 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる。
- 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

＝算数の課題と改善に向けて(小学校)＝

※県の平均正答率を下回った問題

■R6年度の調査結果に基づく主な課題

- ・球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉えることはできているが、立方体の一つの面の面積の求め方を式にしていると考えられる。
- ・球の直径の長さや円周率から体積を求めることができると誤って捉えていると考えられる。
- ・ふたりの歩いた道のりが等しいことは記述できているが、かかった時間が短いことは記述できていない。

□指導改善の主なポイント

- ・図形を構成する要素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにすることが重要である。
- ・場面や目的に応じて、単位時間当たりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるようにすることが重要である。

※全国及び県の平均正答率を下回った問題

【中学校数学 ①(1) ⑥(2)】

全国平均正答率 34.8% 32.1%

県平均正答率 32.4% 35.9%

- 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解している。連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる。
- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。

＝数学の課題と改善に向けて(中学校)＝

※県の平均正答率を下回った問題

■R6年度の調査結果に基づく主な課題

- ・数と式の領域で、伴って変わる二つの数量の変化や対応の様子に着目して関数関係を見だし、その関数の特徴を調べるため変化の割合を求めることに課題が見られる。
- ・図形の性質を考察する場面で、成り立つと予想した事柄について論理的に考察し、それを数学的に表現することに課題が見られる。

□指導改善の主なポイント

- ・連続する二つの偶数を文字を用いて表現できるように指導することが重要である。その際、例えば、連続する二つの偶数の場合、偶数とは2で割ったときに余りが0になる整数であることや、2数の差が2であることなど、数量のもつ特徴を確認することが重要である。その上で、 $2n$ 、 $2n+2$ などと表し、さらに n に具体的な数を当てはめて、正しく表現できていることを確認する活動を取り入れることが考えられる。
- ・事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが重要である。

⑥ 次の図1は、正三角形の3つの頂点に○を、3つの辺に□をかいたものです。○には整数を1つずつ入れ、□にはその□がかかっている辺の両端の○に入れた整数の和が入ります。

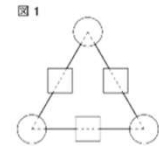
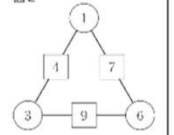


図2



調べたこと

○に入れた整数の和

□に入る整数の和

IV 学習環境に関する調査の結果

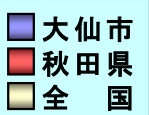
1 概要

- 小・中学生共に、ほとんどの項目で全国や県の平均を上回っており、児童生徒は概ね望ましい生活環境の中で、基本的な生活習慣及び学習習慣を確立し、意欲的に学習に取り組んでいる。
- 児童生徒主体の授業づくりや、達成感・自己有用感をもたせる機会と場の充実を図ることで学ぶ意欲が高まるとともに、地域や異校種間との交流や連携を基盤とした体験活動等を通して豊かな心が育まれている。

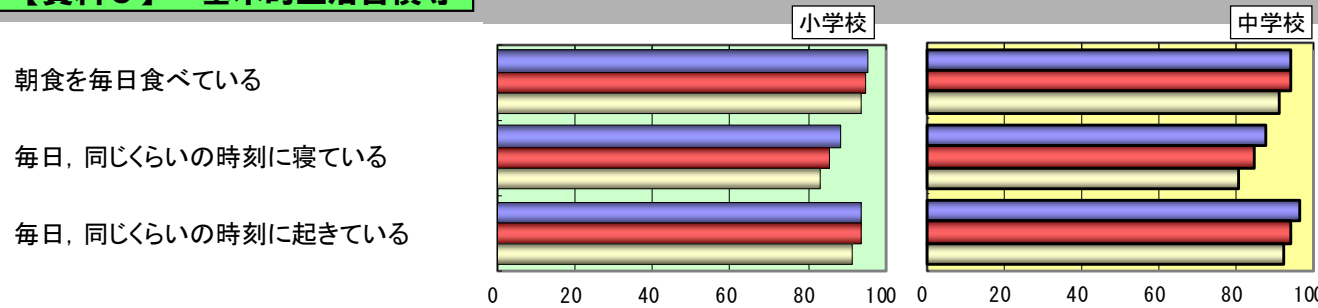
2 結果

2- (1) 生活習慣

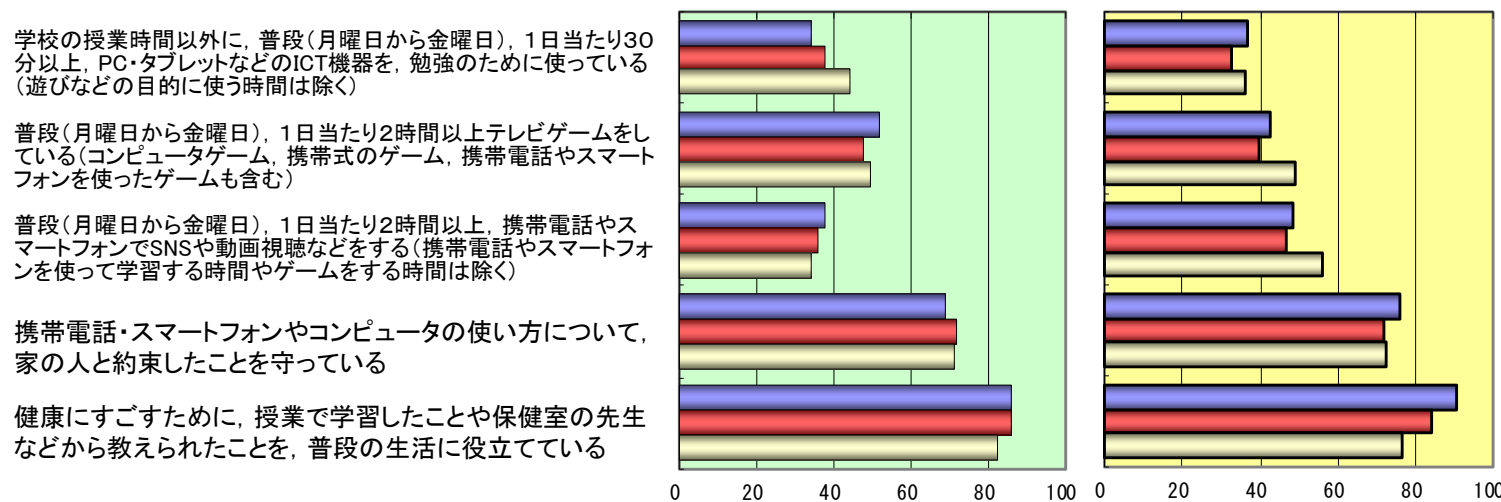
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より



【資料3】 基本的な生活習慣等



○早寝、早起き、朝ごはんに代表される生活習慣に関する項目は、全て全国の平均を上回っており、良好な状況が継続されている。家庭での子どもへの意識付けや教育がなされていると言える。また、学校との連携が図られていることがうかがえる。



●小学校では、自宅で勉強のためにICT機器等を使用している児童は全国や県を下回っており、ゲームや動画視聴、SNS等に費やしている時間が多い傾向にある。
 △中学校では勉強のために自宅でICT機器等を使用しているが、ゲーム等に費やしている時間も県より多い。

IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (2) 学習習慣, 学習環境等

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料4】家庭学習の様子

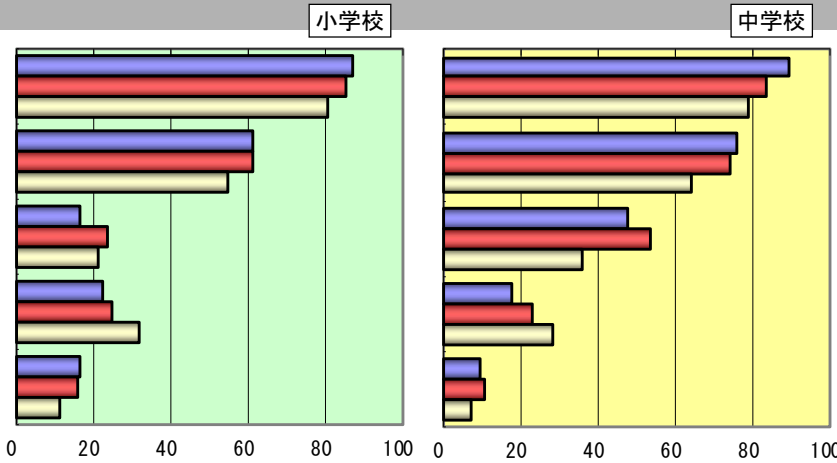
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできる

学校の授業時間以外での平日の勉強時間(1日1時間以上)

学校の授業時間以外での休日の勉強時間(1日2時間以上)

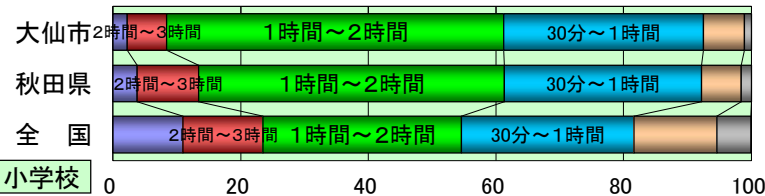
家には、およそ101冊以上の本がある(雑誌、新聞、教科書は除く)

新聞を読んでいる(週1回以上)

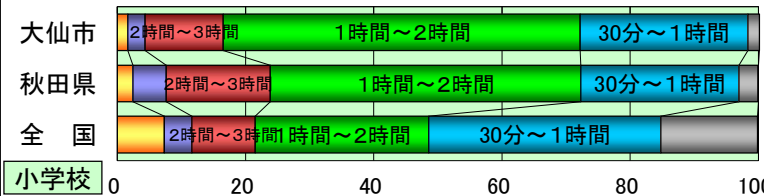


- 小・中学生共に自ら学ぶ姿勢が身に付いている。
- 平日及び休日の学習時間が「1時間以上」の割合は、全国や県の平均と同程度か上回っており、「全くしない」の割合は少ない。家庭でも計画的に学習に取り組んでいる様子が見られる。
- 市の家庭学習時間のボリュームゾーンは1～2時間であるため、2時間以上の割合は県や全国を下回っている。
- 新聞を読んでいる小学生は全国と県を上回っているが、中学生では県平均を下回っている。授業における新聞の利用など工夫が必要である。

【資料5-1】平日の学習時間



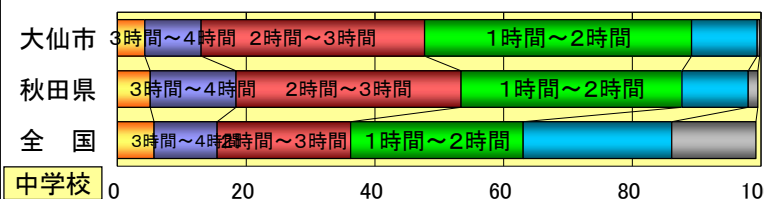
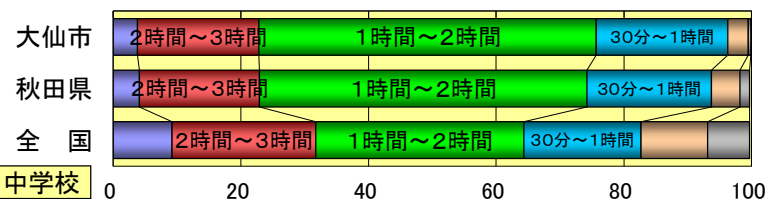
【資料5-2】休日の学習時間



【資料6】平均学習時間

【単位：分】

小学校	平日	前年度比	休日	前年度比
大仙市	100	-10	120	-10
秋田県	100	-10	120	-10
全国	110	0	100	-10



中学校	平日	前年度比	休日	前年度比
大仙市	120	30	150	30
秋田県	120	0	160	0
全国	120	0	120	-10

平日 3時間以上 2~3時間 1~2時間 30分~1時間 30分未満 全くしない
 休日 4時間以上 3~4時間 2~3時間 1~2時間 1時間未満 全くしない

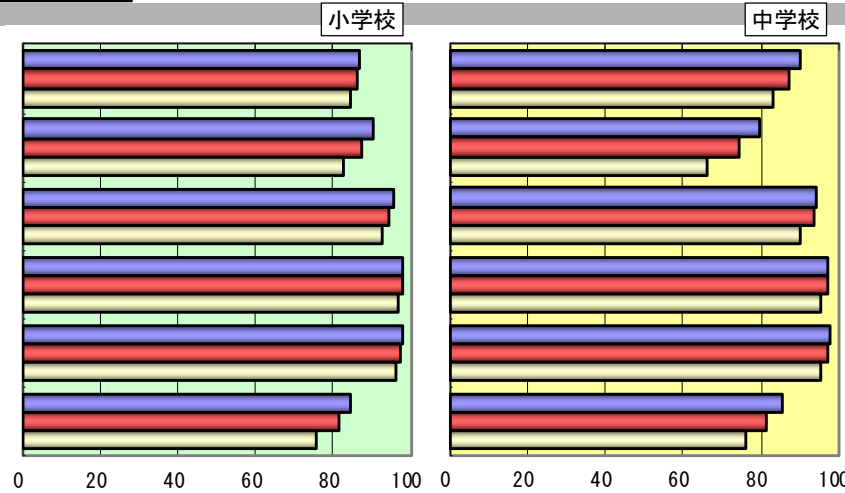
IV 学習環境に関する調査の結果

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

2-(3) 自己有用感, 規範意識等

【資料7】挑戦心, 達成感, 規範意識, 自己有用感, 将来への目標, 等

- 自分には, よいところがある
- 将来の夢や目標を持っている
- 人が困っているときは, 進んで助けている
- いじめは, どんな理由があってもいけないことだと思う
- 人の役に立つ人間になりたいと思う
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい

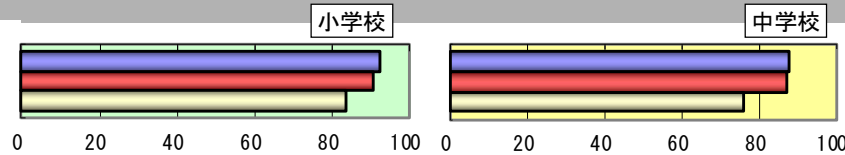


- 自己肯定感や自己有用感, 夢や目標をもつことに関する項目で, 小・中学校共に良好な状況にある。互いを認め合う学習環境の中で, 児童生徒が目標をもって学んでいることの成果と捉えられる。
- 自分でやると決めたことは, やり遂げようとしたり, 難しいことにも挑戦したりする児童生徒の割合が多い。また, いじめはどんなことがあっても許さない, 人の役に立ちたいなどの思いやりの心も好ましい状況にある。

2-(4) 地域への関心

【資料8】地域や社会に関わる活動の状況等

- 地域や社会をよくするために何かしてみたい

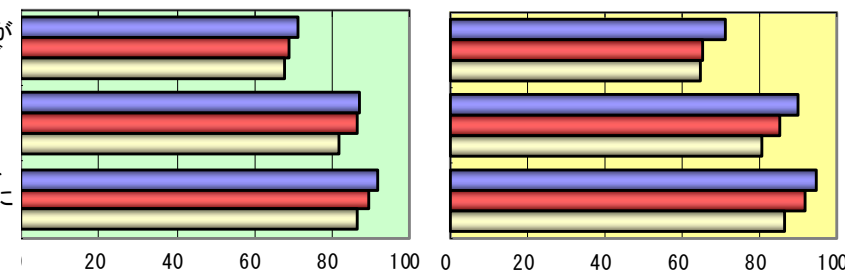


- 地域や社会をよくするために何かしてみたいという回答は, 小・中学校共に全国や県平均を上回っている。大仙市の教育目標である「生きる力を育み, 社会を支える想像力あふれる人づくり」が具現化されている。

2-(5) 学習状況

【資料9】「主体的・対話的で深い学び」の経験

- 前年度までに受けた授業について
自分の考えを発表する機会では, 自分の考えがうまく伝わるよう, 資料や文章, 話の組立てなどを工夫して発表していた
- 課題の解決に向けて, 自分で考え, 自分から取り組んでいた
- 学級の友達(児童生徒)との間で話し合う活動を通じて, 自分の考えを深めたり, 新たな考え方に気付いたりすることができていた



- 前年度までの授業について
- 考えを発表するときには, 相手意識をもって, 資料や文章, 話の組立てなどを工夫して発表していたと回答している児童生徒が, 全国や県を上回っている。
- 課題解決に向けて, 主体的に学ぶことに取り組んでいたと回答している児童生徒が, 全国や県を上回っている。
- 「話し合う活動を通じて, 考えを深めたり広げたりできている」についての肯定的な回答も全国や県を上回り, 学習活動の質が高まってきている。

IV 学習環境に関する調査の結果

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

2 - (5) ICTを活用した学習状況

【資料10】PC・タブレットなどのICTを活用した学習状況

○前年度までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて

PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用した

自分のペースで理解しながら学習を進めることができる

分からないことがあった時に、すぐ調べることができる

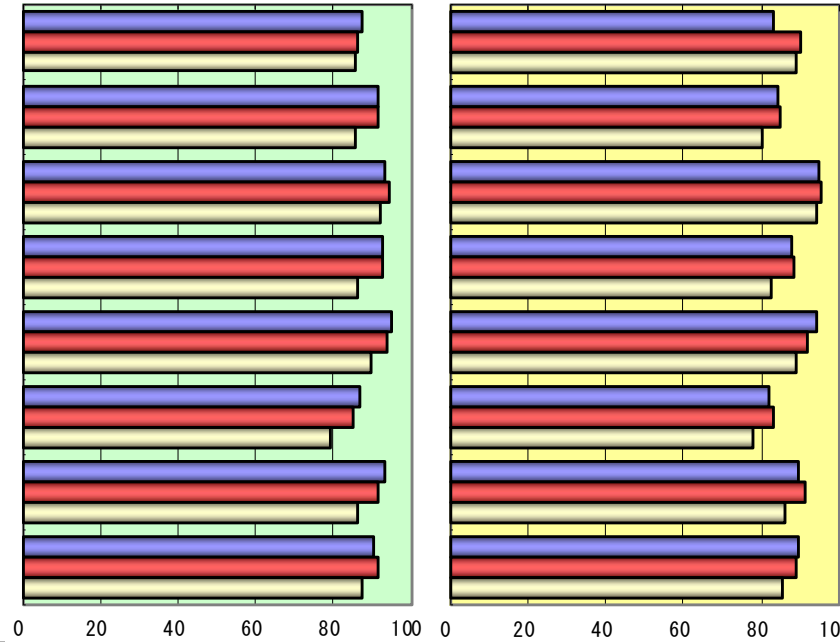
楽しみながら学習を進めることができる

画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる

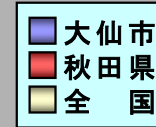
自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる

友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

友達と協力しながら学習を進めることができる



○ICTを活用した学習状況の項目では、全国と県の平均を上回っている項目が多い。また、ICTを使うことで楽しみながら学習できたり、学習内容がよく分ると捉えている児童・生徒が多い。今後も個別最適な学びや協働的な学びの実現に向けて、より積極的な活用を推進していく必要がある。



2 - (5) 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳

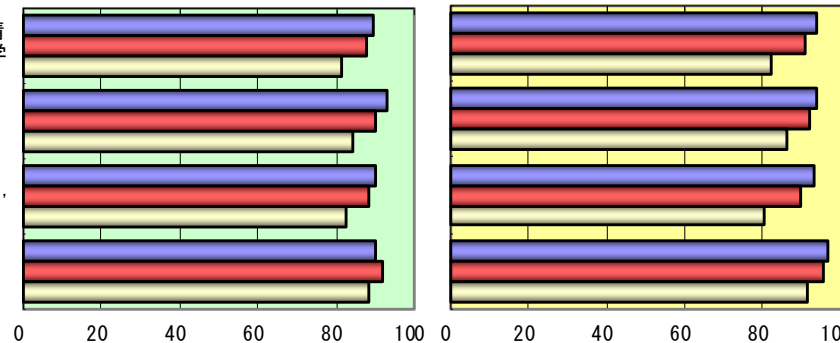
【資料11】総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる

学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている

学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる



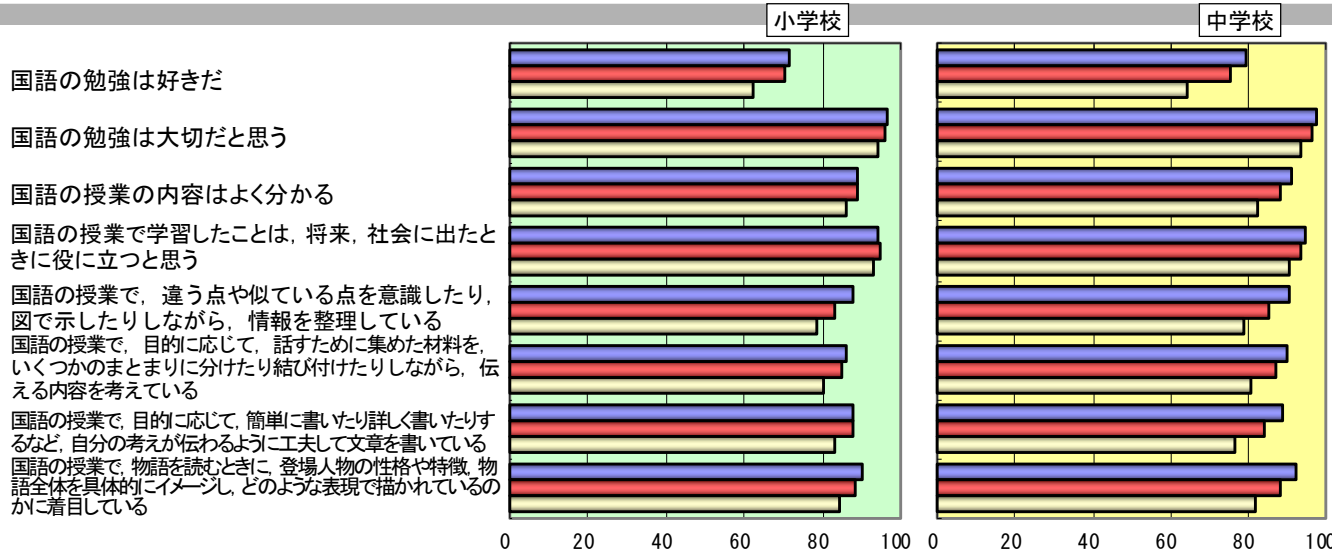
○総合的な学習の時間と学級活動への取組状況は、全国と県の平均を上回り、非常に良好な状況である。道徳では小学校で県平均を下回るが、各学習活動に意欲的な意見が90%程度である。

IV 学習環境に関する調査の結果

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

2 - (6) 教科の学習に対する興味・関心や授業の理解度等

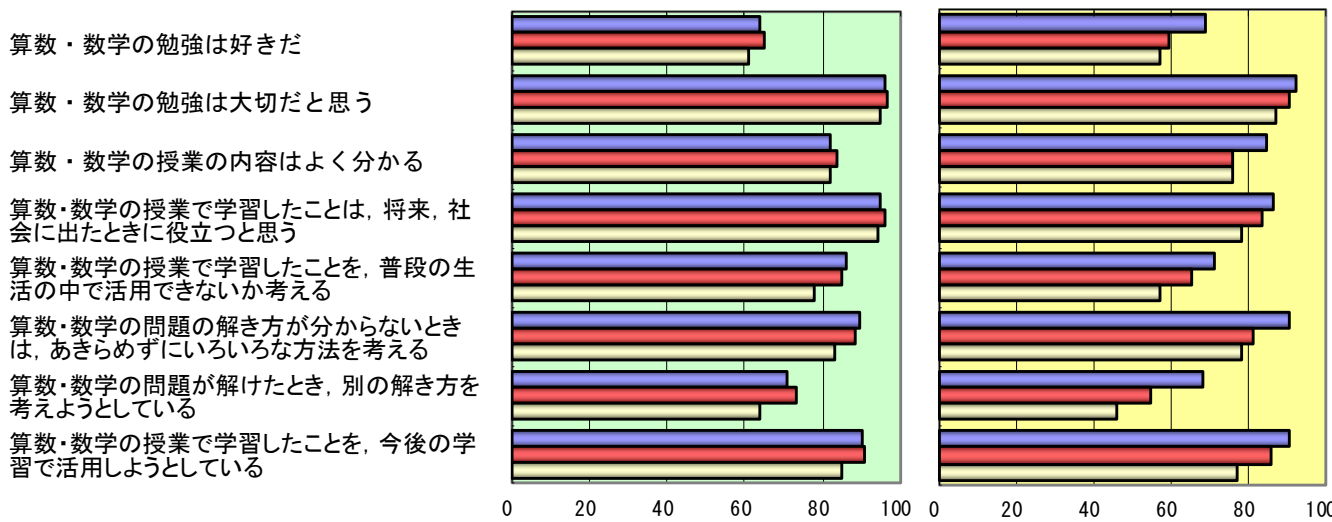
【資料12】国語の学習に対する意識



- 国語に関するほぼ全ての質問項目において、全国や県の平均に比べ良好な状況にある。
- 特に成果が顕著な項目は、
 - ・「国語の勉強は好きだ」
 - ・「国語の授業で違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら情報を整理している」である。
- 「国語の授業内容はよく分かる」の質問項目の肯定的な回答の割合が高く、先生方の授業改善等により児童生徒の理解度が高まっていることがうかがえる。

■ 大仙市
■ 秋田県
■ 全国

【資料13】算数・数学の学習に対する意識

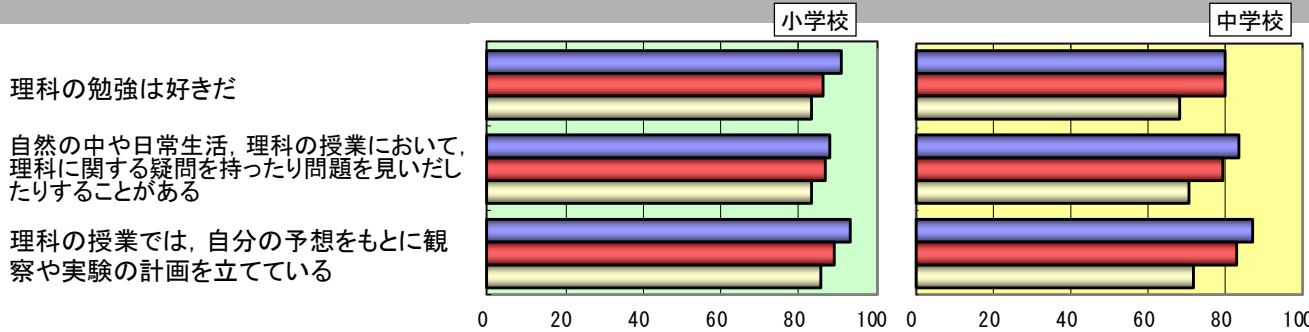


- 中学校は算数・数学に関するほぼ全ての質問項目において、全国や県の平均に比べ良好な状況にある。
- 特に成果が顕著な項目は、
 - ・算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。
 - ・算数・数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている。
- 算数・数学を学ぶ価値、粘り強く取り組むこと、主体的に取り組むこと等を意識している児童生徒が多いことがうかがえる。
- 全国や県の割合と比べると高いが、「算数・数学が好き」の項目が、他の項目と比べ低くなっており、ICTの効果的な活用など授業内容の更なる改善を図っていききたい。

IV 学習環境に関する調査の結果

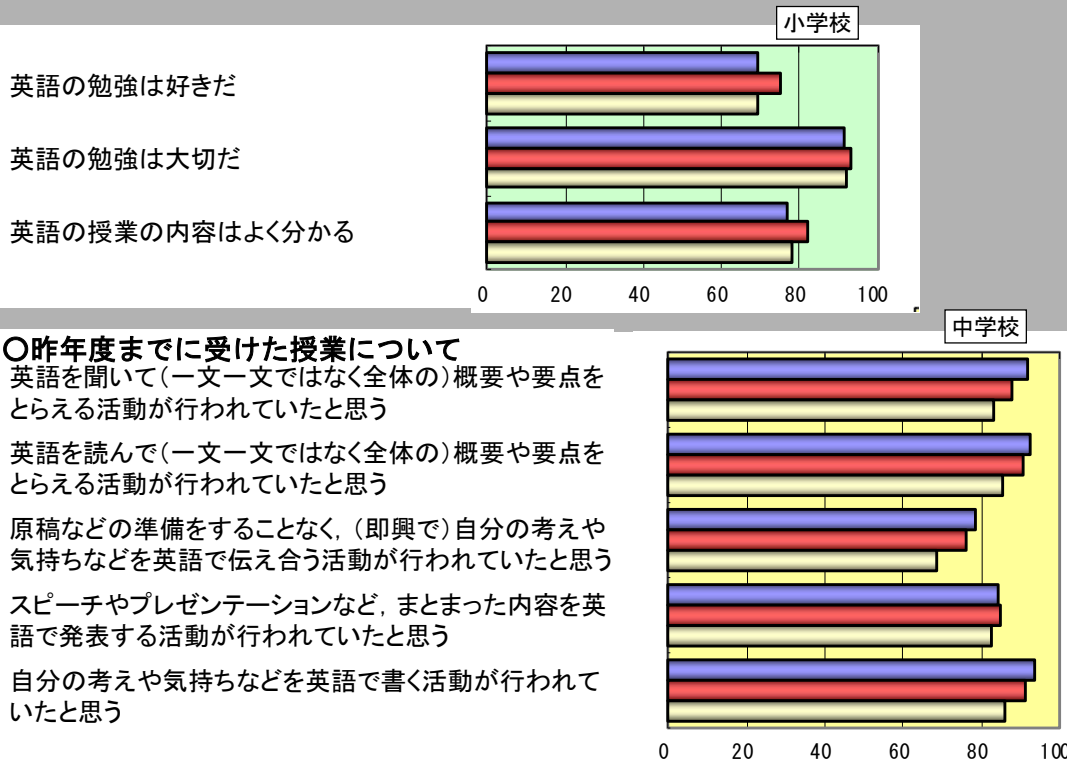
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料14】理科の学習に対する意識



○小・中学校理科に関するほぼ全て質問項目において、全国や県の平均に比べ良好な状況にある。
 ●全国的な傾向ではあるが、将来理科や科学技術に関する職業に就きたい児童生徒が少なく、理科好きから理科系を目指すキャリア教育の充実を図っていきたい。

【資料15】英語の学習に対する意識



○中学校英語に関するほぼ全ての質問項目において、全国や県の平均に比べ良好な状況にある。
 ●小学校は、県平均を下回るが、全国平均と同等である。

■大仙市
 ■秋田県
 ■全国

V 学習環境と学力調査との相関

1 概要

○教科の正答率と相関がみられた児童生徒質問紙の質問項目において、本市の状況は概ね良好である。

児童生徒質問紙において、質問紙の結果と科目の平均正答率との間に相関がみられた主な項目

◎は相関が強い項目

【生活習慣等】〈相関がみられた主な項目〉

- 朝食を毎日食べる。（中学校数学）
- ◎毎日、同じくらいの時刻に寝ている。（小学校国語・算数）

【自己有用感・規範意識等】〈相関がみられた主な項目〉

- 人の役に立つ人間になりたい（小学校国語）
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい。（小学校国語）

【学習習慣・学習環境等】〈相関がみられた主な項目〉

- ◎読書は好きだ（小学校国語・中学校国語）

【ICTを活用した学習】〈相関がみられた主な項目〉

- ◎自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や組み立てなどを工夫して発表した。（小学校算数・中学校数学）
- ◎話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。（中学校国語・数学）

【ICTを活用した学習】〈相関がみられた主な項目〉

- 分からないことがあったときにすぐ調べることができる（小学校数学）

【授業への取組】〈相関がみられた主な項目〉

『国語』

- ◎国語の授業の内容はよく分かりますか（小学校国語）
- 国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いている。（小学校国語）

『算数・数学』

- ◎算数・数学の勉強は好きですか。（小学校算数・中学校数学）
- ◎算数・数学の授業の内容はよく分かる。（小学校国語・小学校算数・中学校数学）

『理科』

- 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。（小学校国語）

『英語』

- ◎自分の考えや気持ちなどを英語で各活動が行われていたと思う。（中学校国語・数学）
- 英語の勉強は大切だと思いますか。（小学校国語）

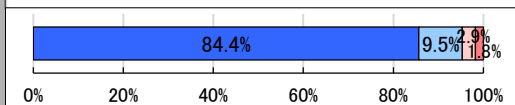
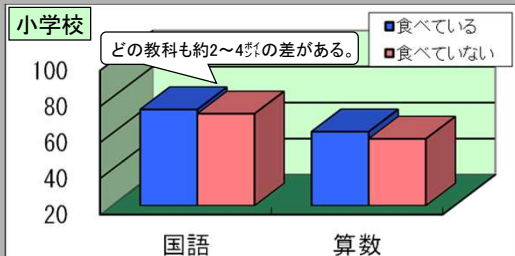
V 学習環境と学力調査とのクロス分析

2 相関

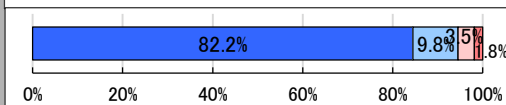
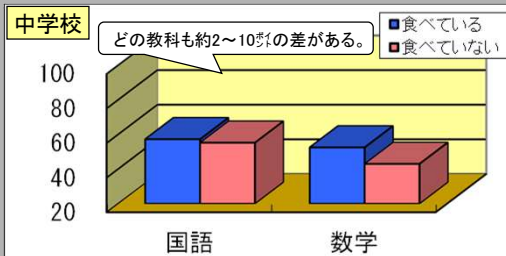
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

【生活習慣等】

【朝食を毎日食べていますか】

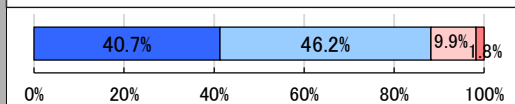
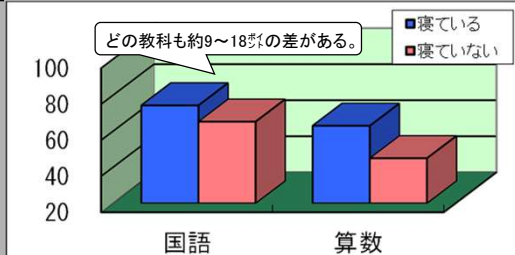


児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



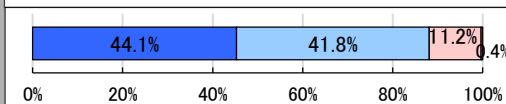
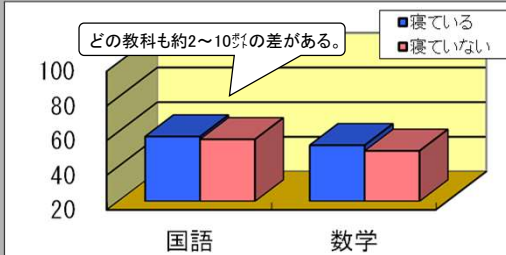
児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

【毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか】



児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

【毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか】



児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

- 「朝食を食べている」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。特に中学校数学において相関が顕著である。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に小学校算数において相関が顕著である。

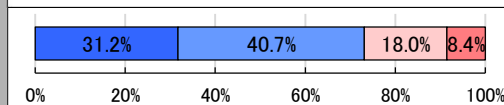
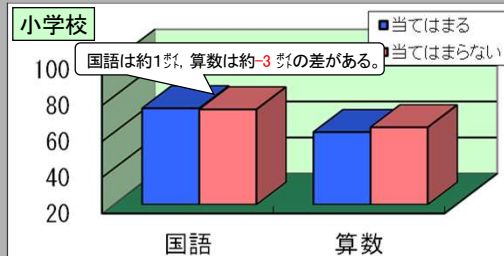
【資料16】

〈質問番号(1)〉

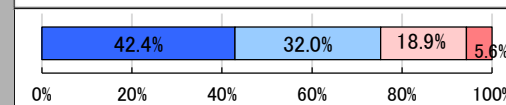
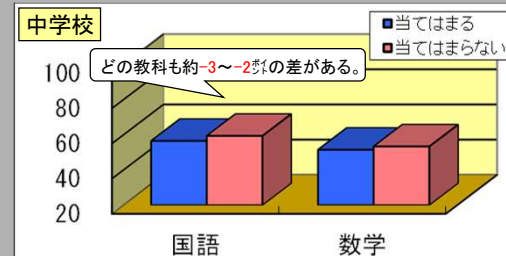
【自己有用感・規範意識等】

【困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか】

〈質問番号(14)〉



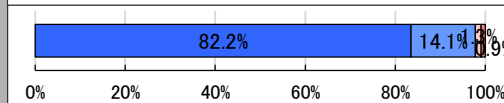
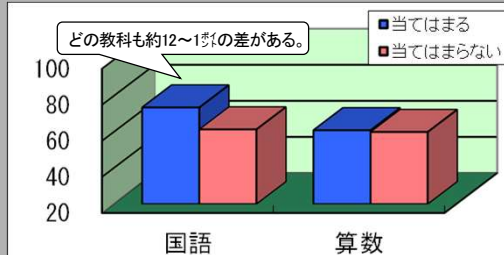
児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



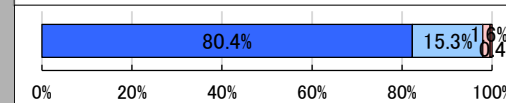
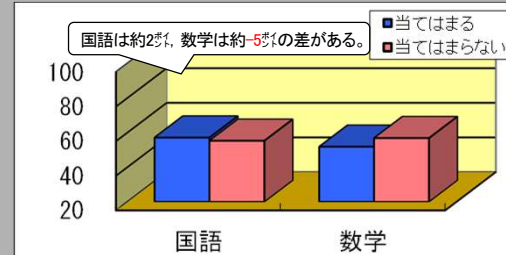
児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

【人の役に立つ人間になりたいと思いますか】

〈質問番号(15)〉



児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



児童生徒数の割合 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

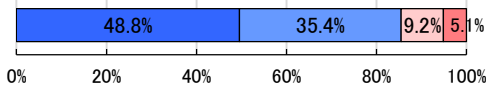
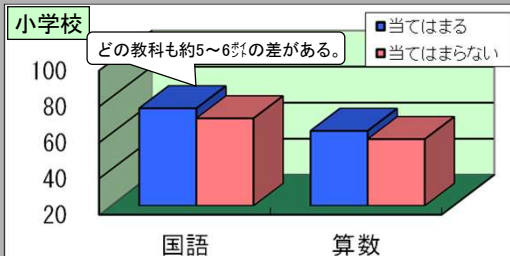
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、中学校数学を除いて平均正答率が高い。

V 学習環境と学力調査とのクロス分析

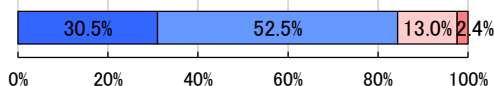
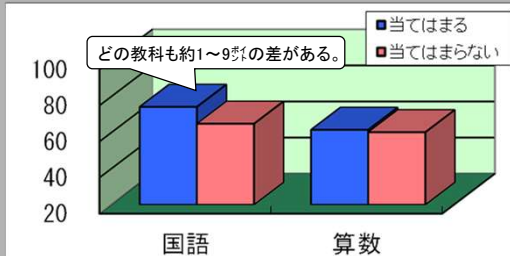
【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

【自己有用感・規範意識等】

【学校に行くのは楽しいと思いますか】



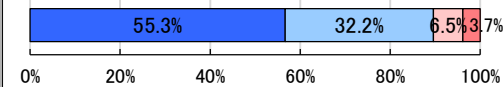
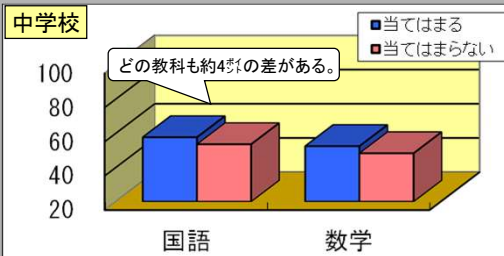
【自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか】



- 「学校に行くのが楽しい」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が小学校では正答率が高いが、中学校では逆の結果になっている。

【資料18】

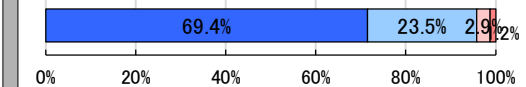
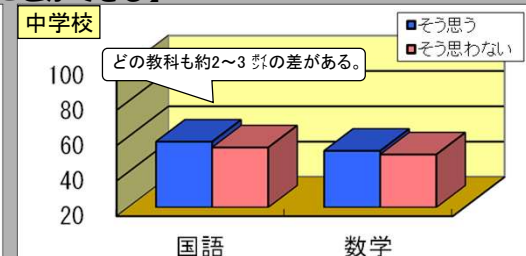
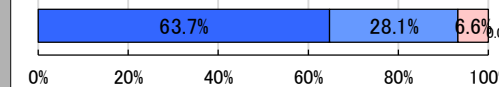
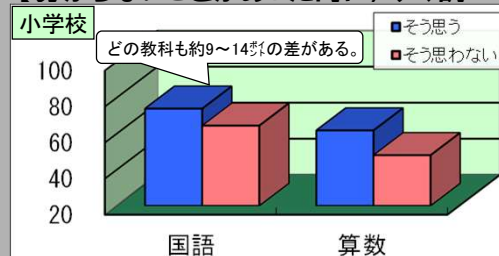
〈質問番号(16)〉



【ICTを活用した学習】

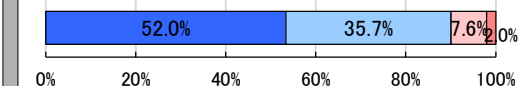
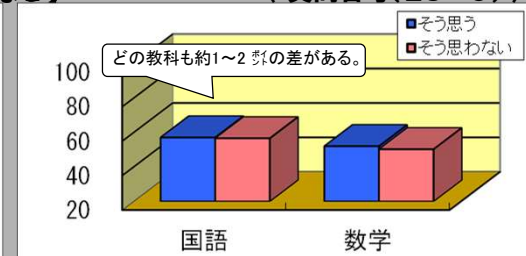
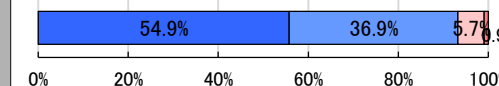
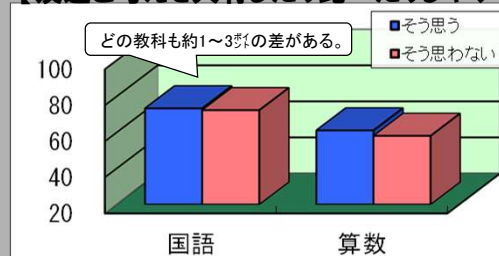
5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて【分からないことがあった時に、すぐ調べることができる】

〈質問番号(28-2)〉



5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて【友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる】

〈質問番号(28-6)〉



- 「ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、ほぼ全ての教科において平均正答率が高い。特に、小学校において顕著である。

V 学習環境と学力調査とのクロス分析

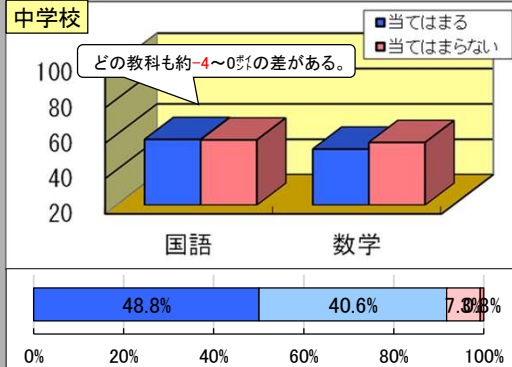
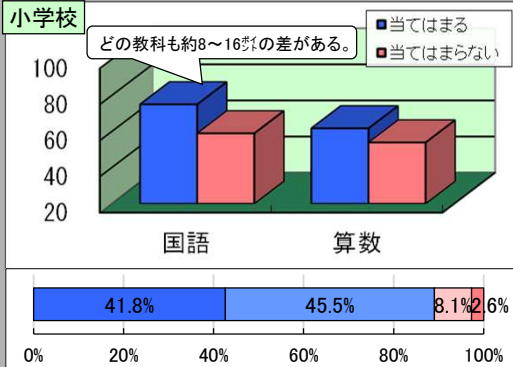
【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

【調査問題への取組】

〈国語〉

【資料20】

【国語の授業の内容はよく分かりますか】

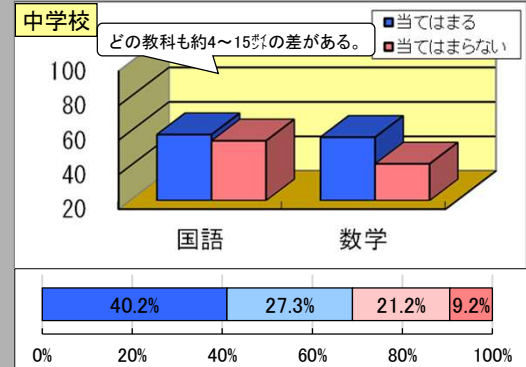
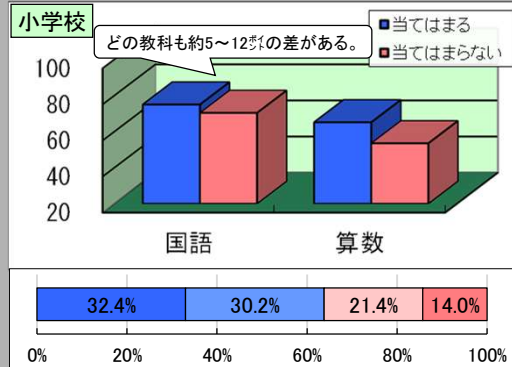


児童生徒数の割合 ■ あてはまる ■ どちらかといえば、あてはまる ■ どちらかといえば、あてはまらない ■ あてはまらない

〈算数・数学〉

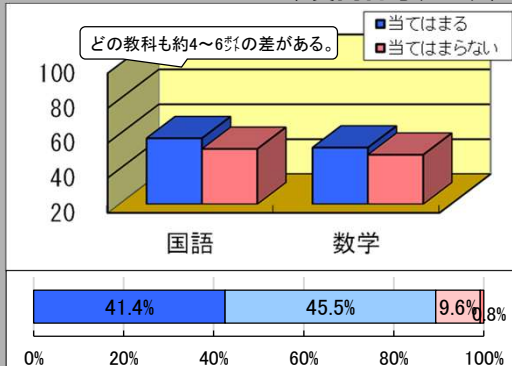
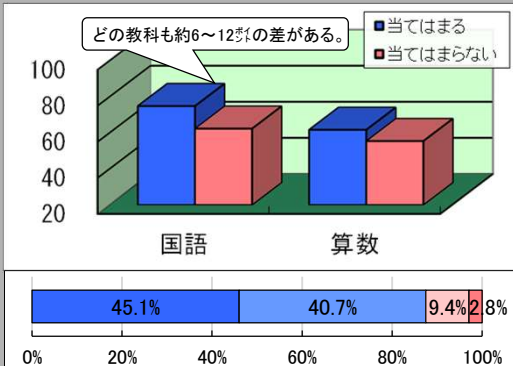
【資料21】

【算数・数学の勉強は好きですか】



児童生徒数の割合 ■ あてはまる ■ どちらかといえば、あてはまる ■ どちらかといえば、あてはまらない ■ あてはまらない

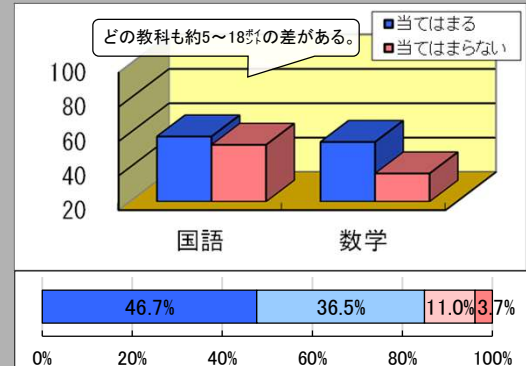
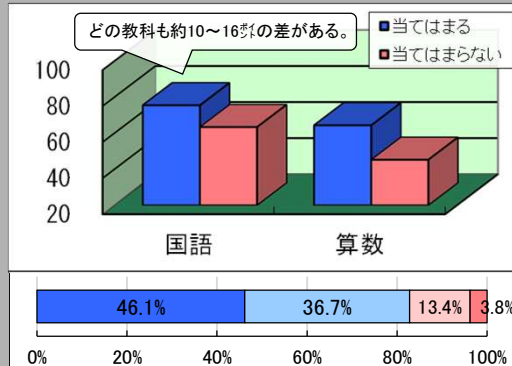
【国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか】 〈質問番号(48)〉



児童生徒数の割合 ■ 書いています ■ どちらかといえば、書いています ■ どちらかといえば、書いていない ■ 書いていない

【算数・数学の授業の内容はよく分かりますか】

〈質問番号(52)〉



児童生徒数の割合 ■ 書いています ■ どちらかといえば、書いています ■ どちらかといえば、書いていない ■ 書いていない

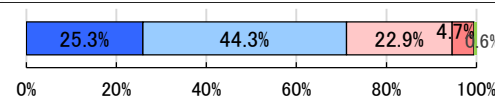
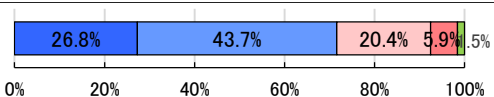
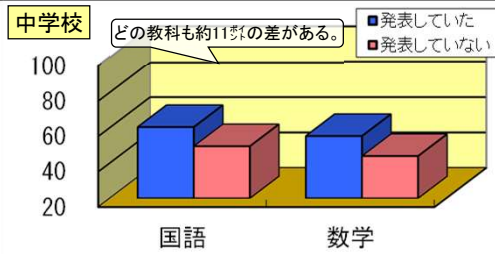
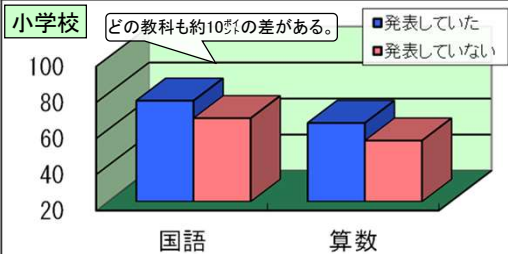
- 「国語の授業の内容はよく分かりますか」に肯定的な回答をした児童生徒の方が、小学校のどの教科においても平均正答率が高い。
- 「国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章をかいている」に肯定的な回答をした児童生徒の方が、どの教科においても平均正答率が高い。

- 「算数・数学の勉強が好きですか」「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方がどの教科においても平均正答率が高い。

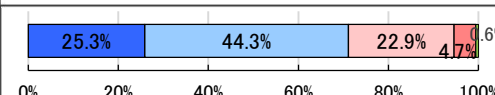
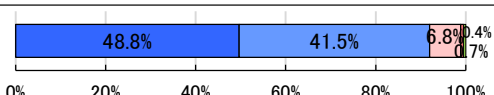
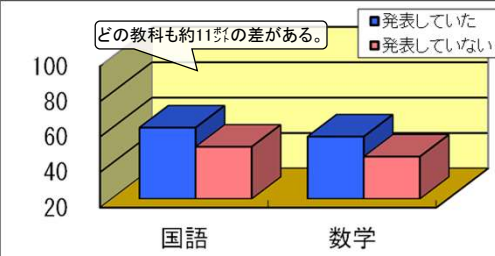
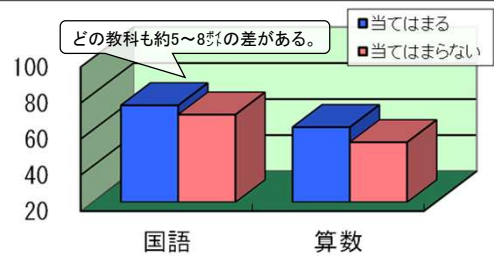
V 学習環境と学力調査とのクロス分析

【主体的・対話的で深い学び】

【自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や組み立てなどを工夫して発表していましたか】
〈質問番号(29)〉



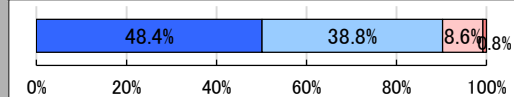
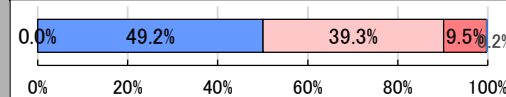
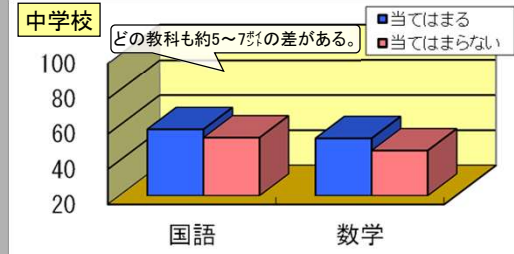
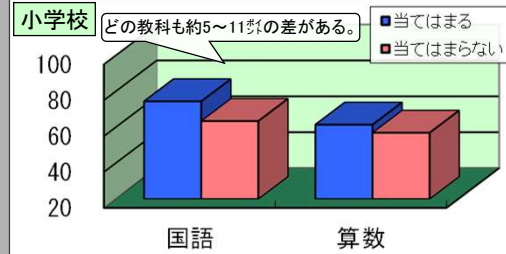
【友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか】
〈質問番号(33)〉



○昨年度までの授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実感する経験があると肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【資料22】

【授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか】
〈質問番号(35)〉

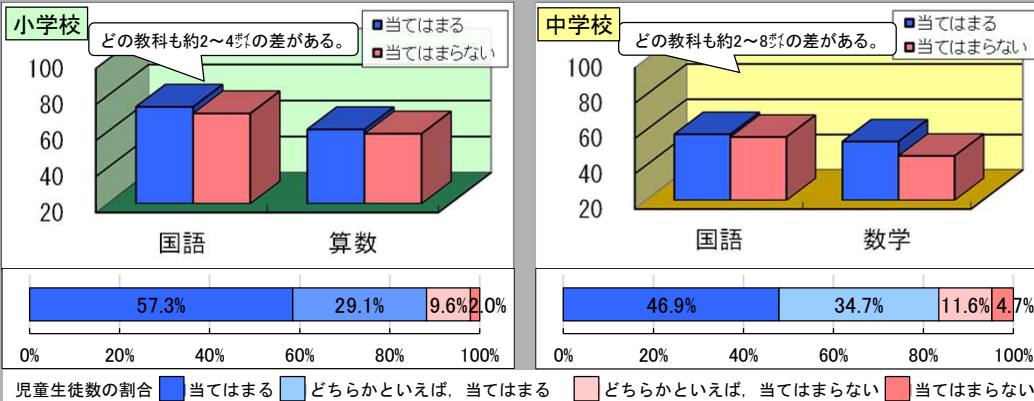


V 学習環境と学力調査とのクロス分析

〈理科〉

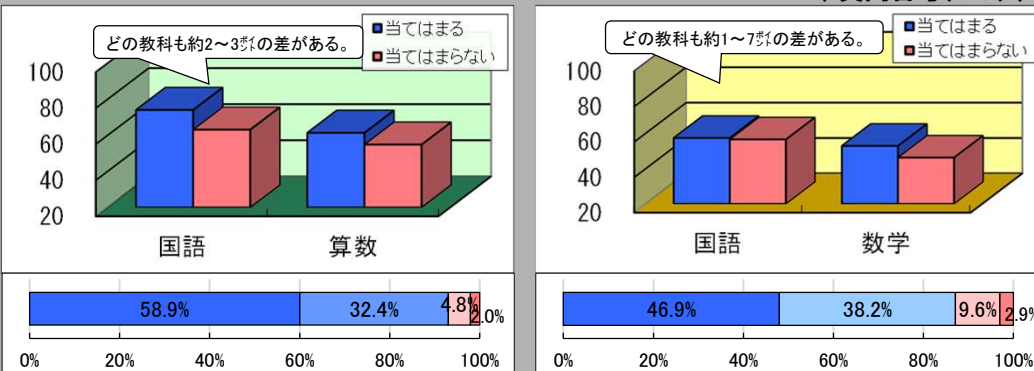
【資料24】

【自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ちたり問題を見いだしたりすることがありますか】
〈質問番号(59)〉



【理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか】

〈質問番号(60)〉

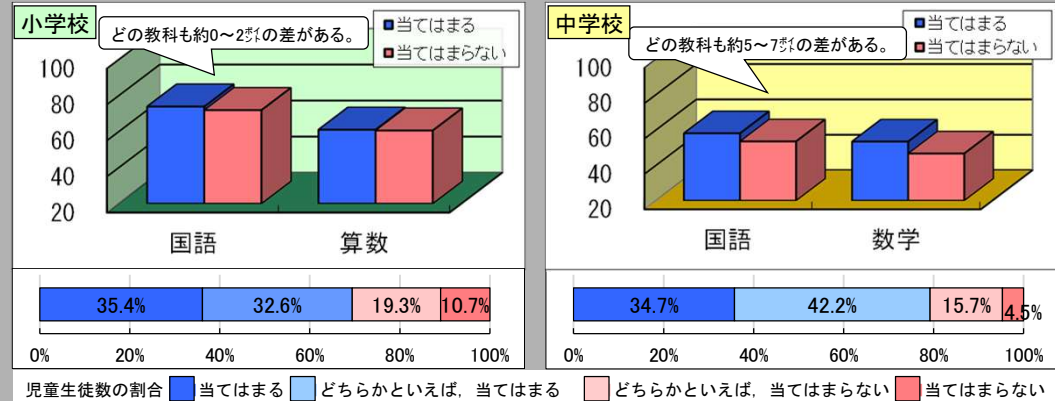


○「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問をもったり問題を見いだしたりすることがありますか」に肯定的な回答をした生徒の数学の正答率が高かった。「理科の授業では自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」に肯定的な回答をしたグループの方が、中学校の国語を除いて平均正答率が高い。

〈英語〉

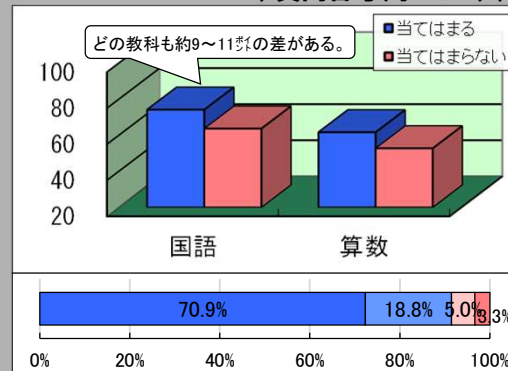
【資料25】

【英語の勉強は好きですか】
【原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか】
〈質問番号(小-61)〉



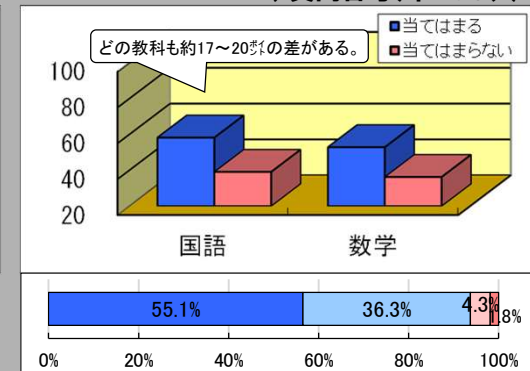
【英語の勉強は大切だと思いますか】

〈質問番号(小-62)〉



【自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか】

〈質問番号(中-65)〉



○小学校の「英語の勉強は大切だと思いますか」に肯定的に回答したグループは国語、算数とも平均正答率が高い。
○中学校の「自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか」に肯定的に回答したグループは国語、数学とも平均正答率が高い。

VI 学校質問紙調査の結果

1 概要

- 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導，習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の工夫改善等に関して，小・中学校共に全国及び県の平均を上回っている質問項目が多く，概ね好ましい取組状況にあると捉えている。
- 家庭や地域に開かれ小・中学校の接続を意識した教育課程の編成，児童生徒の学び方，生き方等に関わる指導，教職員研修等に関しても，小・中学校共に全国及び県の平均を上回っている質問項目が多く，各学校は積極的に取り組んでいると捉えている。

2 結果

(1) 学習指導 - 1

※R5年度の状況について回答するもの

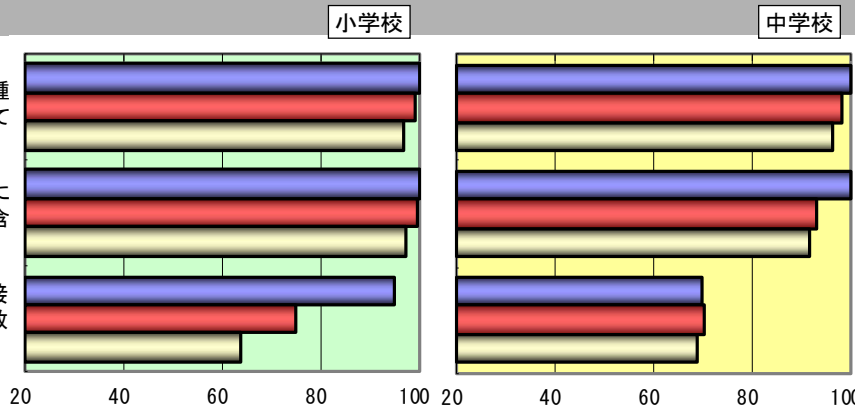
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

教育課程の編成

児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

指導計画の作成に当たっては，教育内容と，教育活動に必要な人的・物的資源等を，地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

近隣等の小・中学校と，教科の教育課程の接続や，教科に関する共通の目標設定など，教育課程に関する共通の取組を行った



【資料26】

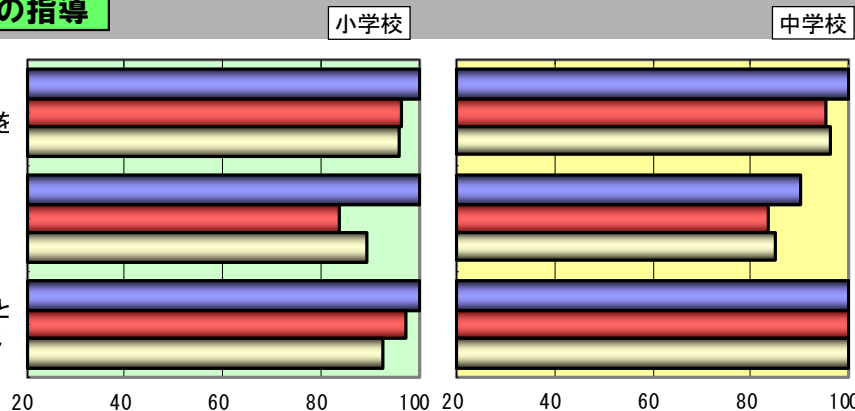
- 「教育課程に関する共通の取組を行った」の項目は，小・中学校共に全国及び県を大きく上回り，良好な状況である。
- 児童生徒の実態や地域の現状を把握して教育課程を編成していることがうかがえる。また，小・中学校の連携もできている。

自己有用感の醸成，生き方等の指導

児童生徒の様々な考えを引き出し，思考を深めたりするような発問や指導をした

児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し，その解決に向けて話し合い，まとめ，表現するなどの学習活動を取り入れた

学級活動の授業を通して，今，努力すべきことを学級での話し合いを生かして，一人一人の児童が意思決定できるような指導を行った



- 小・中学校共に自己有用感の醸成に努めていることがうかがえる。
- 「児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し，その解決に向けて話し合い～」は，小学校が100%，中学校でも全国や県を大きく上回っている。

VI 学校質問紙調査の結果

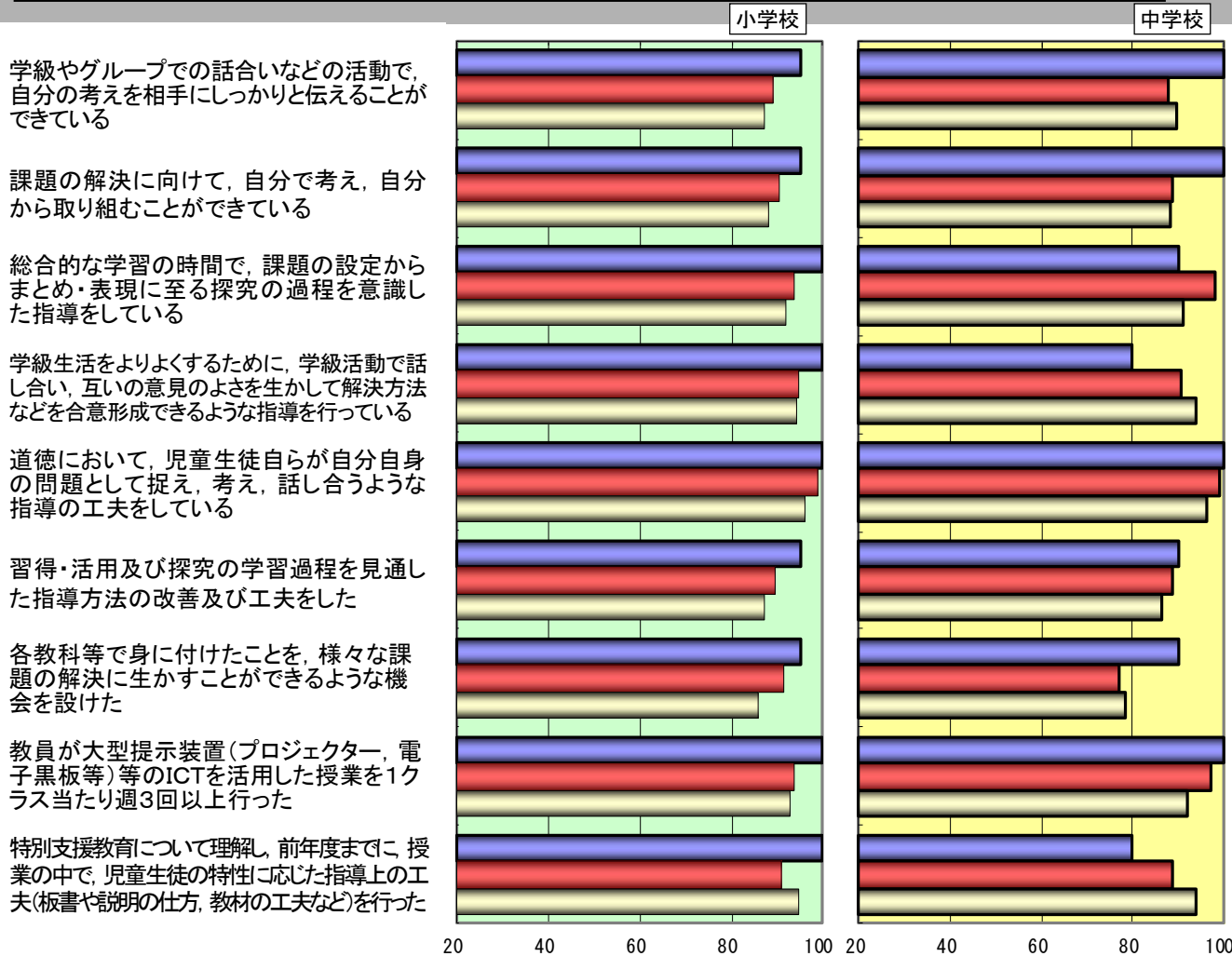
(1) 学習指導－2

※R5年度の状況について回答するもの

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】学校質問紙調査結果より

学習指導(学習規律の定着, 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善, ICTの活用 等)

【資料27】



大仙市
秋田県
全国

- 「道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている。」「ICTを活用した授業を1クラス当たり週3回以上行った」において、小・中学校共に100%の肯定的回答である。
- 小学校では、「総合的な学習の時間で、課題の設定から、まとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている」「学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っている」「特別支援教育について理解し、前年度までに授業の中で児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った」の肯定的回答が100%である。
- 中学校では、「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる」の肯定的回答が100%である。
- 中学校では「学級生活をよりよくするために合意形成できるような指導」「特別支援教育について理解した上での指導上の工夫」が全国や県を下回っている。

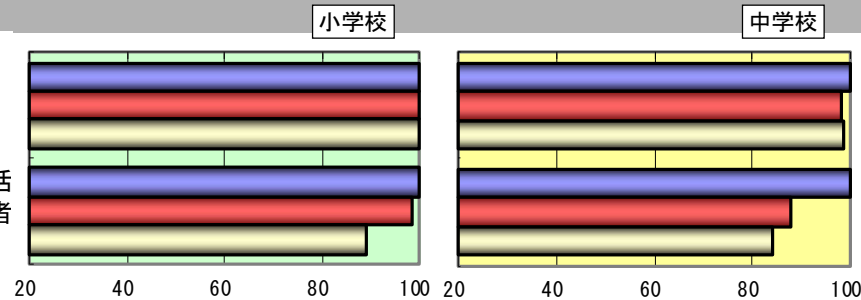
VI 学校質問紙調査の結果

(3) 交流と連携

家庭や地域との連携

職場見学や職場体験を行っている

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まった



【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

【資料28】

○小・中学校共に「職場見学や体験を行っている」「コミュニティ・スクールや地域学校共同活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まった」の肯定的回答が100%である。



(4) 学校の研修体制

教職員の研修等

模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている

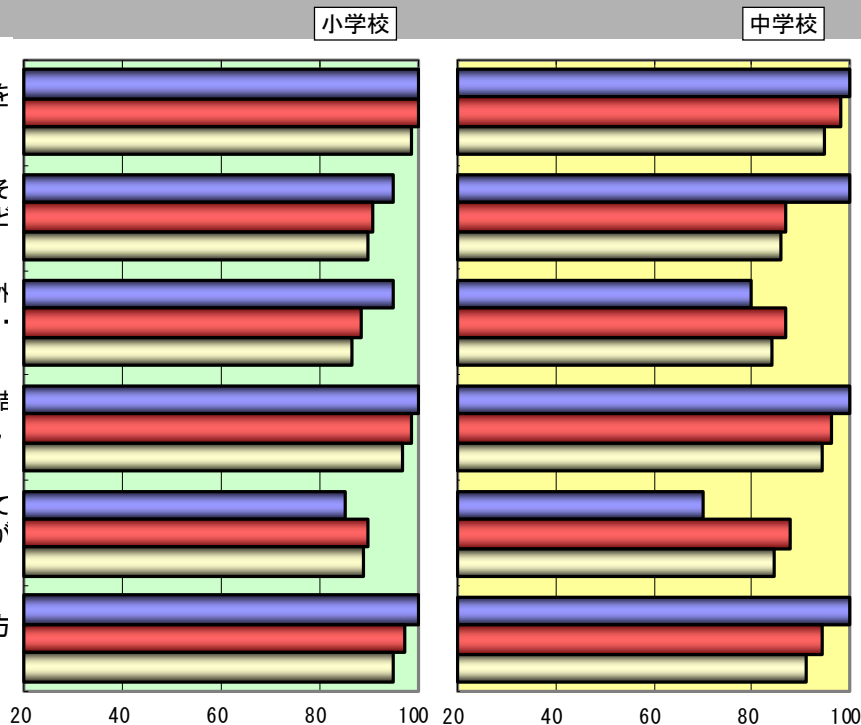
児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している

令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した

コンピュータなどのICT機器の活用に関して学校内外において十分に必要なサポートが受けられてる

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がある



【資料29】

- 小・中学校共に校内外での研修を積極的に行っている。
- 授業研究に対して小・中学校が合同で研修を行うなど連携が図られており、全国や県の平均よりも高い状況にある。
- 「コンピュータなどのICT機器の活用に関して学校内外において十分に必要なサポートが受けられている」の項目が全国や県を下回っている。